



Be an ACE!

大志・貢献・活力

県立直江津中等教育学校
H30 学校だより No. 12

平成 30 年 8 月 31 日 (金) 発行

夏季休業明け全体講話

校長 山賀 淑雄

夏休み中は、インターハイ、全国中学総体、全国高校野球大会などがありました。テレビや新聞で選手の活躍を見たり、読んだりした人も多かったと思います。本校でも、矢澤祥太さん、鈴木基心さんの2人の生徒が全国大会の競泳に出場し活躍しました。また6年生の田中修太さんは、クライミングの世界大会で活躍しました。本当にすばらしいと思います。スポーツに限らず、学問、科学、芸術など、どの分野でも全国や世界で活躍する人達の話からは、そこに至るまでの長期に渡る努力の跡が伝わってきます。今日はそのようなことを考えながら、二つのお話をします。

一つ目は、今月の新聞記事(新潟日報8/3)に取り上げられていた、陸上の山県亮太選手の話です。山県選手は皆さんも知っているとおおり、日本を代表する男子 100 メートルの選手です。日本歴代2位の記録を持ち、これまで2度オリンピックに出場している選手です。昨日もジャカルタで開かれていたアジア大会で、見事に銅メダルに輝きました。男子陸上100メートルと言えば、日本人で初めて10秒の壁を破った桐生選手が有名です。山県選手が3学年年上ですが、2人はいいライバルだそうです。

山県選手は小学校4年生の頃から陸上を始め、陸上クラブに入って走りを磨いたそうです。中学時代から自分で練習メニューを考えたということです。勉強も得意だったそうで、大学は慶応大学に進学しました。その後、2度のオリンピック出場、400mリレーでは銀メダルを獲得しました。しかし、高校時代に足のけがで走れない時期があったり、台頭してきた桐生選手に惨敗したりしました。また昨年は右足首の故障で世界代表選手権代表の座を逃しました。しかし山県選手は、このような多くの挫折を経験しながらも、そこから立ち上がり筋力強化に本格的に取り組みました。その努力が実り、6月の日本選手権100mで優勝し、今回のアジア大会で3位となりました。今後は2年後の東京オリンピックを目指すことになります。

もう一つの話は、この夏の全国高校野球の話です。それは三重県の大会で、山間部にある白山高校という県立高校が、初めて甲子園に出場したという話です。白山高校は2007年から10年間連続で、三重県の大会で初戦敗退という学校でした。しかし5年前に新しい監督が赴任し、ゼロからのスタートを切りました。まず始めにやったことは、草だらけのグラウンドを変えることだったそうです。練習よりもグラウンドをならすことに多くの時間を割いたということです。選手達はその後、数多くの練習試合をこなし、昨年は3回戦まで勝ち進み、そして今年は見事に甲子園出場を果たしました。過疎化の進む山あいの小さな町にある学校のチームが、わずか5年でこのような快進撃を見せたことは、全国的にも注目されました。私はこの話を聞いたとき、大きな目標を立て、それに向かって一つずつ困難を乗り越えてきたことの成果だと思いました。途中で、「こんなに一生懸命にやっているのに前に進めないのか」とベンチで涙をすることもあったそうです。しかし、そのような多くの挫折を乗り越えて甲子園出場を果たしたことは、賞賛に値するものだと思います。

先ほどの山県選手にしても、白山高校の選手にしても、もしこれまでの多くの挫折の中で、途中であきらめていたら今日の姿はなかったかもしれません。困難があってもあきらめずにやり続けること、当たり前のように、このことが実は大きな目標を達成するための大きな原動力になるのです。本校6年生の英語の教科書に、G r i tという言葉が題材となって出てきます。この言葉は「どんな困難にも負けない忍耐力、根気強さ」という意味です。G r i tの重要性について、ペンシルベニア大学の心理学者であるAngelea Duckworthさんという人が研究しました。彼女によると、これまで歴史上で成功を収めた人に共通している特性は、「長期的な目標を定め、それが達成されるまでは、情熱と忍耐力を持って必要なことは何でもやり続けること」であると言っています。あきらめてしまうことは簡単です。しかしG r i tを身に付けている人は、それをやり続けていくことができる、と彼女は言っています。G r i tは才能ではありません。日々の生活の中で自分で育てていくもの、育てることができるものです。

今日は二つのお話をしましたが、目標に向かって進む姿勢は、今述べたG r i tに通じるところがあります。困難や挫折があっても、自分の立てた長期的目標に向かって、忍耐強くあきらめずにやり続けること、そのことが大きな成功へとつながっているとと言えます。そしてこのことは、学問、スポーツ、芸術などあらゆる分野に言えることです。G r i tについて、もう少し詳しく知りたい人は、ぜひ原文にあたってみてください。

今日から授業が再開されました。皆さんの日々の努力が、大きな目標を成し遂げるための大きな鍵となります。皆さんが長期的な目標を立て、そしてその目標に向かって、困難があっても決してあきらめることなく、忍耐強く努力を続けることを期待しています。

異学年交流会を実施

8月27日(月)は夏休み明けの授業初日でした。6限の授業の後、中高一貫校の特長の一つである異学年交流会が行われ、今回のテーマである文化祭について話し合いました。1年生から5年生までが指定の教室に集まり、小グループで車座になって質問、助言、意見などを交わしました。各グループでは5年生が進行係となって話し合いをリードしました。「カレーを作るときに気を付ける点は?」「お化け屋敷はどうすれば怖いものになるか?」など、前期生が積極的に4、5年生に質問し、4、5年生がその質問に丁寧に答える姿がありました。

一般の中学校や高校では中学生と高校生が日常に交流する機会はありません。異学年交流会は、前期生だけにメリットがあるのではなく、後期生にとっても先輩としての自覚、本校を背負う自覚が芽生えるなど、いい機会になっています。中高一貫校ならではの異学年交流会を今後も大切にしていきます。



今年も盛り上がりました!

～直江津祇園祭 PTA 民踊流し参加～

7月28日(土)、今年も直江津祇園祭の民踊流しに、PTAが主催の「直江津中等民踊流しチーム」が参加しました。今年も男子生徒2名を含む生徒、保護者、同窓会員、教員総勢30名が真夏の夜の直江津の街を踊り歩きました。参加者からは「こんなに楽しく、気持ちいいとは知らなかった。これからも多くの生徒や先生に参加してもらいたい。」という声が聞かれました。本校に関わる多くの人たちが一つのチームを作って地域の祭り文化を体験し、地域

交流をしたり郷土愛を育んだりすることができる民踊流しを、今後も大切な機会にしていきます。

～生徒の活躍～水泳全国入賞! スポーツクライミング日本代表選出!

夏休み中に行われた各種大会では、水泳やスポーツクライミングで素晴らしい活躍がありました。全国中学校水泳大会に出場した3年生矢澤さんがバタフライ100m、200mで2位。インターハイ水泳大会に出場した4年生鈴木さんが50m、100m自由形で決勝進出。鈴木さんはジュニアオリンピックでも50m自由形で4位入賞、100m自由形で8位入賞を果たしました。また、6年生田中さんは9月6日から行われる「IFSC世界選手権インスブルック大会(オーストリア)」に日本代表メンバーとして選出され、リード競技に参加します。入賞、選出おめでとうございます。

今後の主な日程

- 9月 3日(月) 6年生センター試験出願説明会
- 5日(水) 前期上越合同新人水泳大会 カウンセラー来校日(午後)
- 6日(木) 後期生期末考査前部活動停止(18日まで) クラブ
- 7日(金) 前期生期末考査前部活動停止(18日まで) 4年生海外研修オリエンテーション
第5学年PTA懇親会
- 8日(土) 4、5年生土曜講座 6年生医療看護模試
- 11日(火) チャレンジウオーク保護者ボランティア打ち合わせ
- 13日(木) 後期生1学期期末考査(19日まで) クラブなし
- 14日(金) 前期生1学期期末考査(19日まで)
- 20日(木) クラブ チャレンジウオーク事前指導
- 21日(金) チャレンジウオーク ランチなし
- 23日(日) 6年生進研駿台マーク(24日も)
- 25日(火) 2年生国際理解ワークショップ
- 26日(水) 月曜授業 委員会
- 27日(木) 4年生進路講演会 クラブなし
- 29日(土) 3年生修了テスト追試 6年生全統論文模試

